

令和4年2月25日

保護者の皆様

岸和田市立山直南小学校
校長 仙石 晴彦

令和3年度 学校教育自己診断 < 保護者・児童アンケート結果 > について

梅花の候、保護者の皆様方におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本校の教育活動推進のためにご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今年度も学校教育自己診断について、保護者の皆様にアンケートを実施させていただきました。また児童にもアンケートを実施し、子どもたちが今の山直南小学校での学校生活をどのようにとらえているかをとらえる機会としました。

これらアンケート結果を真摯に受け止め、これからの学校運営に生かしていきたいと考えております。以下、アンケート結果と考察を記載いたしますので、ご覧いただくとともに、今後とも本校教育活動へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

<保護者アンケートの分析と考察>

今年度はインターネットを活用したアンケート調査を実施させていただきました。そのためか、アンケートの回答率に関しては例年より低くなってしまいましたが、リアルタイムでの集計が実現できたことで、分析や考察などをスムーズに進めることができました。

今回の特徴としては、「よくあてはまる」や「あてはまる」といった肯定的な評価をいただいた項目が80%以上あったものが23項目中で22項目、90%以上でも23項目中で20項目もありました。全体としては、本校の教育をととても肯定的にとらえていただいていることが伺えました。

その中でも、「学校は、家庭への連絡を適切に行っている」「地震や台風などの対応について、児童に訓練したり保護者に知らせたりしている」の項目については、60%を超える家庭から「よくあてはまる」との高い評価をいただきました。この「家庭との連携」や「学校の安心・安全」の項目については、今年度、特に大切にして取り組んできたことでしたので、家庭からも高い評価をいただいたことについては、学校としても素直に喜びたいと思っております。

一方、「学校は、授業参観や懇談会を設け、保護者や地域の人々と話をする機会を多くもっている」「学校では、PTA活動が活発である」の2項目については、否定的評価が多い項目となりました。コロナ禍により学校に集まっていただく機会が少なかった影響が色濃く表れた結果だと受け止めております。今年度は端末を活用した学校からの行事中継などの新しいスタイルでの情報発信にも工夫をしまいましたが、授業参観やPTA活動などを通じて保護者の皆さまに学校にお越しいただいて、子どもたちの頑張りや学校の様子などを直接ご覧いただく機会の必要性や、保護者の皆さまと学校とのつながりを深めることへのニーズなどについて、改めて再認識させられる結果となりました。

なお、今年度から新設させていただいた「朝の漢字学習」「タブレットの活用」「感染症予防」の3項目については、いずれも90%を超える肯定的評価をいただいていることから、これらの取り組みに対しての一定の成果があると感じていただいていることが伺えました。今後も引き続き、これらの取り組みにも力を注いでまいりたいと考えております。

保護者の皆さまと学校とが両輪となり、今後も特色や魅力のある学校づくりを目指すとともに、より安全で、より安心できる学校の実現に向けて引き続き努力をしままいります。

<児童アンケートの分析と考察>

特徴的な傾向が見られた項目について考察しています。

※数値は、低学年「そう思う」、中学年・高学年「そう思う」と「大体そう思う」の合計。

「学校に行くのが楽しい」 低93%・中90%、高86%

学年が進むにつれて肯定的評価が少なくなり否定的評価が増えていく傾向にあります。

近年のコロナ禍が続く中、学校に通うことに閉塞感や負担感を感じる児童が潜在的に増えているといわれておりますが、本校においても同じような傾向が見て取れると感じております。

今後への課題として、子どもたちとのコミュニケーションの充実を更に図っていくことが必要になると考えております。

「学校には、仲のよい友達がいる」 低96%、中98%、高100%

全学年を通じて、肯定的評価がたいへん高い結果となりました。

一昨年度や昨年度からも上昇傾向にあります。子ども同士の良好な関係づくりなど、人間関係を構築していく力が順調に育まれていると受け止めております。今後も引き続き状況把握と理解に努めてまいります。

「授業はわかりやすい」 低95%、中91%、高95%

こちらも全学年を通じて、肯定的評価の高い結果となりました。

特にタブレットを活用した学習を多く取り入れるようになったことなどが、子どもたちが授業を肯定的に捉える大きな要因になっているものだと考えております。

しかしその反面、「教わるだけの学習」から「自ら考えたり、調べたりまとめたりする学習」へと学習の質そのものが変わってきていることへの戸惑いも、子どもたちにはあるようです。特に中学年では「わかりやすいとは思わない」と強い否定を示す子どもも出ています。

今後もそういった実態も踏まえながら、子どもたちに必要な資質や能力をどう培っていくのかについての研鑽を、学校としてもしっかりと進めていきたいと考えております。

「困った時に相談できる先生がいる」 低95%、中77%、高82%

以前より大きな課題となっている項目ですが、本年度も同じような傾向が続いています。

特に中・高学年において、自分が困っていることを先生には相談できないと感じる子どもが増える傾向にあります。

「思春期に向かう子どもの健全な心の成長の現れ」と捉えることもできますが、「子どもたちと教職員との関係性の希薄化」と危機感を持って捉え、子どもたちが教職員に相談をしやすいような丁寧な対応や声かけ、温かい雰囲気づくりにより一層の努力を続けます。

「たてわり活動は楽しい」 低80%、中79%、高98%

高学年と低・中学年との受け止め方の「違い」が、顕著に現れた項目となりました。

高学年はリーダーとしての「やりがい」を感じている傾向が出ていると受け止めています。

反面、低・中学年では「たてわり活動にあまり魅力を感じない子どももいる」ということが見受けられます。こういった傾向を念頭に、これからのたてわり活動の在り方や進め方などを再検討していきたいと思っております。

新設項目「朝の漢字学習」 低83%、中91%、高99%

新設項目「タブレットの活用」 低68%、中89%、高100%

新設項目「感染症予防」 低78%、中94%、高100%

これら新しい項目については、学年が進むにつれて「子どもたちの自覚や意識」が高まっていく傾向が見られました。特に高学年では、非常に強く意識されていることがアンケートからも伺えます。これらの項目については、今後もますます重要度が高まっていく活動になりますので、学校としてもしっかりと取り組みを進めていきたいと考えております。